



2011-12 年度 R I のテーマ「心の中を見つめよう 博愛を広げるために」
 R I 会長 カルヤン・バネルジー (Reach Within to Embrace Humanity)
八戸南ロータリークラブ会報
 例会日：毎週木曜日 12:30 例会場：八戸パークホテル

ガバナー 小山内 康晴 会長 三川 博 幹事 榊 清蔵 会報委員長 岡山 明美
 ホームページ：<http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/> Email：hsrclub@hi-net.ne.jp
 RI 第 2830 地区ホームページ：<http://www.rotary-aomori.org>

第 1767 回例会記録 ゲストスピーチ例会
 2011 年 12 月 15 日 (木) 点鐘 12:30

レポート NO.1233

1767 回例会要旨

- ・会長要件 (トリックスターについて)
- ・表彰 MPHF4 回目 長嶺会員
- ・幹事報告
- ・各委員会報告 (出席、親睦、R 財団、R 情報)
- ・ゲストスピーチ

ゲスト

根谷伸夫様 (八戸聖ウルスラ学院高等学校講師)

会長要件 三川会長



暮れも押し迫って来て、忘年会シーズンになりました。多少忘年会にも関係すると思います。トリックスター、この言葉は通常日本でも通用し、神話や物語の中で神や自然の秩序を破り、物語を引っ掻き回すいた

ずら者という言葉から来ています。映画でも芝居でも TV、アニメでもその役割の人はいます。盗みやいたずらをし、ビックリさせたり、おどけて見せたりする人。物語では楽しくて、英雄的行為や重要な役割を演じたりするのが特徴で、一貫性に欠け矛盾した態度をとり、脇役で終わるのが特徴です。周りにもそのような人がたくさんいますが、三枚目の役、ピエロ、パントマイムやフーテンの寅さん、チャップリンなど。最近は橋下徹がトリックスターだという言い方をされています。政治を変える・・・と、単に引っ掻き回すだけなのか、歴史を見ないと分かりません。そんな存在が私達の生活にも欠かせないものです。

ユングはトリックスターを重視した人で影(シャドウ)と考えました。影とは人間の隠された側面、社会で通常生きられなかった人格部分を言います。我々は笑い、軽蔑しながらも一部共感されるのは人間にはトリックスターを出したい。影を生きたい願望があり、社会人としてやっている他に別の裏も持っていることで、探偵小説などを読むのも裏の心理に興味が多量あるのです。しかしそれらをコントロ

出席報告 木村出席委員長

正会員 43 名出席免除会員を除く会員 35 名中
 本日の例会は免除会員 4 名を含む 33 名出席率 85%
 前々回例会：メ-キャップ 0 名で出席率 86%

ールしているのでは表に出できません。ではクラブ会長はトリックスターなのではと考えます。また、クラブの中にトリックスター役の人が 2、3 人いるとクラブが活性化するのはとも思います。そう言う事でトリックスターは社会においても重要であると思います。

表彰

マルチプルポールハリス
 フェロー：長嶺会員



幹事報告 榊幹事

- * 12/22 クリスマス家族例会について
- * 南分区 合同例会について 2/4(土)13:30 ~ 八戸プラザホテル
- * 例会変更、八戸 RC ; 1/4 任意休会 八戸東 RC : 1/6 時間変更



* 1 月 5 日例会は蕪嶋神社での互礼会 12:30 からです。例会後マリエントで食事です。

ニコニコボックス 松田親睦委員長

三川会長：根谷先生ゲストスピーチよろしくをお願いします。

平光会員：遅くなりましたが韓国訪問団の皆様ご苦労様でした。



委員会報告 R 財団委員会平光委員長

ガバナー事務所よりロータリー財団新地区補助金奨学生募集の案内が届いています。国内外の高校生、専門学校生、大学生で経済的に困窮している学生。条件は当地区内に本籍または住民票のある人など詳しくは事務局へ

ロータリー情報委員会：三浦晃委員長
 クラブホームページ、リンクのページ



で 2830 地区のホームページへ行きガバナー月信を見てください。以前は印刷物で、理事役員に配布されていましたが、今は HP だけです。見るだけでよいので開いてください。10 月号に吉田新会員が載っています。

ゲストスピーチ例会 ゲスト紹介:三川会長

梶谷さんは私と同期です。聖ウルスラ学園の講師で八戸唯一のエンターティナーで劇団を主宰したり Be-FM の番組に出たり、TV にも出ています。

梶谷伸夫様：

はじめまして。私は蕪島町内にすんでいます。八戸南 RC さんが蕪島のトイレを綺麗にして下さるとのこと、住民を代表してお礼申し上げます。蕪島は子供の頃から私の遊びのテリトリです。少しずつ前に戻ってきています。



南部弁を楽しんでいただきたいと思います。南部弁を使って町を元気に行きたい。それは私のテーマだと思っています。せんべい汁ほどブレイクできなくてもこつこつと色々なところで南部弁の面白さを伝えて行きたいと思っています。今の高校生は南部弁をつかえません。年寄りと同居している子が多少分るくらいです。八戸に生まれた証拠に好きな八戸弁を 5 個位覚えるようにと学生には言っています。

僕がなぜ南部弁にこだわるようになったかと言うと村次郎さんの詩集からで、海村をモチーフに一人芝居をしました。その時、岐阜の関係者が「梶谷さんの津軽弁いいですね」と言いました。東京以南の方は、青森は全て津軽弁だと思っていますし、津軽弁しか知りません。今や絶滅寸前の南部弁です。昔コに「はますか」と言う地名があります。今は新湊一丁目ですが、「すか」とは砂の事で砂浜と言う地名だったのです。白銀一丁目はむかし「すかばた」と言いました。六ヶ所から続く砂浜の端という意味で、南部昔コには地名や土地の様子が出てきます。

メドツの宝物。津軽にはメドツはなさそうです。昔々八戸の北に八太郎沼という沼がありやんした。長治という若者が沼のげーぐるを歩いておりやんした。沼の中から『これ長治チョット待て』と沼の中からビヨーンとメドツが飛び出し、『これ長治、勘太郎堤のメドツにこれを届けてける』と手紙を投げてよこした。勘太郎堤も失われた地名です。長根堤ならご存知でしょうが千葉高校の下の方です。長治は字が読めなかった。何したもんかと思って歩いていたら村の庄屋に会い『これ長治どこさいくど』『八太郎沼のメドツに頼まれ勘太郎沼のメドツさ手紙ば届けに行ぐ』『メドツの手紙はどつたらものか見せないが』というので見

せたら、この手紙には『この若者のケツツ(尻)ア上手けたすけエ、いが取って食』と書いてある。庄屋はこのままでは大変だから書き換えてやると『この若い者は親孝行でよく稼ぐやつだ、何か宝物をけてやれ』と書いてくれた。これを持って堤さ行き『メドツ様八太郎沼のメドツ様から手紙頼まれてきやんした』堤からメドツがビヨーンと出てきて、そうかどつたら宝物がほしい、一代ものか、二代ものかと言われ、長治は一代が一番良いと思いイチダイ有ればと言うとメドツがこれもっていけと石臼を出した。やっとの思いで持って帰り試しに回してみると中から米がちょろちょろ出てきた。長治は回した、回した。米は出はってくる、ジャラジャラと長治はたちまち長者様。家っこ建てたところが長者、ケチャむく糠を捨てたところが糠塚と言われます。長治はメンコイ嫁もらったと、この嫁が面はメンコイが欲たかりで石臼の穴を大きくすればと金槌とノミで穴をたたいたと、力いっぱい叩いた。石臼はやめてけろ！と、たまりかねてぐるぐる回ったところで石臼がそのまま飛んでいった。飛んで行った所が西の彼方。どこさ行ったと思います。秋田へ行き土の中で回り続け秋田では米が取れ、八戸では満足に米が取れなくなった。欲たかりはダメ、イチダイが 1 代で終わりどつとはらい。今は八太郎沼や勘太郎堤もありませんし、石臼も博物館にしかありません。ご先祖がどういう生活をしたか八戸はどういう土地だったのか、そのものを学べると思います。

金曜日の「お国言葉で川柳を」の渋谷伯龍さんが本を出しています。その中の川柳を紹介します。「リヤカーでほまじ稼いだ腰曲がり」「だほとくる ほまじねんけん ながすべか」ほまじとは法律に則った正当な報酬でないもの、例えば船頭が水揚げをしないで分けたもの。子供の頃イカが多く取れ船乗りが分けたほまじイカなどがあります。そのイカをリヤカーで売る。イサバのかっちゃんといわれる人でイサバ御殿を建てた人などがいました。こうはなりたくないですが、「へったきゃ いつへったきゃな じじとばば」「あれほれ それ気もやける物忘れ」段々(年で)挨拶されても思い出せなくなってきています。「年金の蓋っこ開けたっきゃ ぎゃあねえなあ」ぎゃあねえはどうすることも出来ない寂しさです。「えんじっこのビックリの夢っこなんだべな」今えんじこを作っているのは畑中畳屋さん位でしょう。それも民芸品としてです。ビックリはカエルですが、赤ん坊を謙遜して言っています。「かっちは耳、むすめは首たてオラあたま」これは光物のことです。「腹でも なんとかた晩げによる飲み屋かな」「おしょしいと 患者が喋ればシピン来る」市民病院へ行って看護師さんに話したこともあります。若い看護師さんも言葉を理解しないと笑い話のよう

になります。

昔津軽弁の日に対抗して南部弁の日をといったことがあります。あちらは RAB がバックにいます。小中野で一度やりました。その時の歌を紹介します。「標準語で挨拶するえふりこき」「パチンコで年金取られるほんじなし」「飲み過ぎて ごんぼ掘ってる よっきりの相手無くして 一人ごもめく」六日町などで酔っ払っている、ごじゃばけと言い、誰も相手もせず、一人にされた状態です。「一時ま 待っててけんだ もよるすけ 面さぬたくてめごくなる」

最後に短い物語を。(要旨)『鯨にマナグの见えない坊さんがおりやんした。三味線と歌っこが好きで朝から晩までお寺の本堂でデンドコデンドコ「ハー鯨の港は良いところ…」これがへたくそで耳を覆いたくなるようだった。村のげーぐるの人が『和尚さん何とかな

りあんせんか子供は泣くし昼寝も出来やんせん』和尚さんは迷惑のかからないところでやれと言われ、坊さんは浜の岩の上でデンドコデンドコとやっているところ、鯨があだりほどりやってきた。そのうちに鯨は腹が減って坊さんを食ってしまったと。そんなことも分からずに坊さんは鯨の腹の中でデンドコとやっていたら三味線の撥が胃に刺さり、これはたまらんと鯨は鯨に来て坊さんを吐き出した。どっとはれ』これは昔いわしが取れ、それを追って鯨がやってきたのです。1700年頃鯨が100頭もやってきたとあります。メドツの宝もそうですが昔の生活がわかります。【南部弁が良くわからず、記載誤りがあるかと存じますがご了承ください】